

特 集

豊田市との包括連携について

安藤 恒三郎¹

要旨

本学は豊田市と「包括連携に関する協定書」を 2013 年 3 月 29 日に締結した。協定に基づく連携協議会準備会が開催され、連携協議会の設置と連携を行う事業について検討された。包括連携事業の実施第 1 号となった「医中誌 Web 講習会～業務に文献の裏付けを～」が豊田市内の保健師・管理栄養士などの公衆衛生関係職員を対象に、本学 LL 教室で 2013 年 7 月に開催された。今後、住宅用火災警報器の普及啓発フェスタや、とよた防災フェスタなどが企画されており、本学としてこれら事業に積極的に係る予定である。

キーワード 包括連携協定 豊田市 包括連携事業

I. はじめに

本学では、豊田市社会福祉協議会講座、豊根村教育委員会講座、逢妻地区ふれあい祭りなどへの教員・学生の参加や、地域住民を対象とした公開講座の実施など、ヘルス・プロモーション委員会が中心になって地域との連携を図ってきた。このたび豊田市からの呼びかけで、豊田市と本学を含む市内 4 大学・1 高専（以下、「大学等」と、知的人的資源の連携を図る目的で「包括連携に関する協定書」を締結したので、その概要を報告する。

II. 豊田市と包括連携に関する協定

2013 年 3 月 29 日、豊田市役所で同協定の締結式が行われ、太田稔彦豊田市長、協定を結ぶ豊田市内にある 4 大学の学長や理事長 5 人、工業高等専門学校長、各学校の関係者ら約 40 人が出席した。出席者は、学校法人安城学園 寺部暁理事長（愛知学泉大学）、学校法人名古屋電気学園 愛知工業大学 後藤泰之学長、学校法人梅村学園 中京大学 北川薫学長、学校法人日本赤十字学園 日本赤十字豊田看護大学 安藤恒三郎学長、独立行

政法人国立高等専門学校機構 豊田工業高等専門学校 高井吉明校長で、それぞれ太田稔彦豊田市長と協定書を交わした。（写真 1, 2）

調印式で太田市長は、「豊田市は平成 17 年の合併以来山間部が増え、多様性のあるまちになった。豊田市では、都市部での生活や農山村部での生活など、自らライフスタイルを選択し、豊かさを実感できる『暮らし満足都市』を目指しているが、その実現にあたり、大学などの教育機関は大切な財産である。今日の協定締結を機



写真 1 包括連携締結式（於豊田市役所）

左から 豊田工業高等専門学校、日本赤十字豊田看護大学、中京大学、豊田市長、愛知工業大学、愛知学泉大学

¹ 日本赤十字豊田看護大学



写真 2 包括連携締結式（於豊田市役所）
安藤日本赤十字豊田看護大学長と太田豊田市長

に、個々の具体的な取組みについて随時検討していきたい」と述べた。寺部理事長は、「これからはグローバルに活躍できる人材も必要であるが、同様に地域で貢献できる人材も必要だ。この協定を機に、今後学生が積極的にまちづくりに参加できるよう推進していきたい」と話し、後藤学長は、「本校では『創造と人間性』を掲げ、社会に役立つ人材の育成を目指している。多くの学生にまちづくりを支援する活動に参加してもらいたい。本校にある様々な資源が、この地域の活性化につながればうれしく思う」と話し、著者は、「本学には、医師や看護師が教員として在籍しており、災害発生時や、地域住民への公開講座など、様々な形で地域に貢献できるのではないかと話した。今後は連携協議会を設置し、協定を結んだ市、大学等で具体的な連携内容について協議していくことになる。

Ⅲ. 豊田市と日本赤十字豊田看護大学との包括的連携に関する協定書

豊田市と日本赤十字豊田看護大学（以下「両機関」という）は、相互の発展と充実に資するため、地域社会の文化、教育、まちづくり等の振興に係る連携及び協力を推進するにあたり、次のとおり協定を締結する。

包括連携に関する協定書

（目的）

第 1 条 本協定は、両機関が包括的な連携のもと、地域の課題に適切に対応し活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び人材育成に寄与することを目

的とする。

（連携事項）

第 2 条 両機関は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携し協力する。

- （1）両機関が有する知的資源、人的資源及び物的資源の活用に関すること
- （2）両機関が共同で実施する事業に関すること
- （3）学術振興、教育及び人材の育成に関すること
- （4）その他前条の目的を達するために必要な事項に関すること

（連携推進会議）

第 3 条 前条の連携事業を円滑に推進するため、連携協議会（仮称）を設置する。

2 連携協議会（仮称）に関し、必要な事項は別に定める。

（守秘義務）

第 4 条 両機関は、本協定に基づく活動において、相手方より知り得た秘密事項について、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、第三者に対し開示又は漏洩してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第 5 条 本協定は、協定締結の日から発効し、3 年間とする。ただし、その間の連携・協力内容の評価を行い、両機関の合意により更新することができる。

（その他）

第 6 条 本協定に定める事項について疑義が生じたとき又は本協定に定めのない事項について必要があるときは、両機関が協議して定める。

この協定の締結を証するため、本協定書 2 通を作成し、両機関記名押印のうえ、各自その 1 通を保有する。

平成 25 年 3 月 29 日

学校法人 日本赤十字学園

日本赤十字豊田看護大学学長

安 藤 恒 三 郎

豊田市長

太 田 稔 彦

Ⅳ. 包括連携協定に基づく連携協議会準備会

2013年6月13日、豊田市役所南53会議室において、包括連携協定に基づく連携協議会準備会が開催され、連携協議会の設置と連携を行う事業について検討された。本学からは松井章洋事務局長が参加した。連携事業を効果的効率的に推進するために、進行管理、取り組み評価、連絡調整、問題点の解決などを行う体制として、連携協議会の設置が必要となった。本会議は実務レベルの責任者の会議であり、大学・高専の所管部長・課長など、豊田市の所管部長・課長、経営戦略室政策監・課長などで構成されることとなった。本学からは大西文子学部長を連絡協議会メンバーとして推薦した。

Ⅴ. 平成25年度連携を行う事業

本年度連携を行う事業として、調査研究・アドバイス4項目、防災に関する協力・連携2項目、教育カリキュラム（授業）1項目、公開講座の実施2項目、学生の活動場所提供7項目、インターンシップ1項目、その他1項目の7分野18項目が提示された（表1）。本学としてすべての分野で貢献できると考えられるが、その中で特に、調査研究・アドバイスや防災に関する協力・連携が取り組みやすいと思われた（表1）。

表1 連携事業の内容・依頼事項・時期・規模・連携先など一覧（連携協議会準備会資料）

事業内容	大学側に依頼したい事項	時期	規模・数量	希望する連携先
将来を見据えた公共建築物の「質・量・コスト」の最適化を図るための方針を策定するもの	全国的な最適化の取組に関する研究データや全国傾向、課題、政策立案における注意点などを学術的・専門的見地から多角的なアドバイスをいただけるアドバイザーの派遣を求める。	平成25年（予定） 6月：経営戦略会議への付議 7月：部長会議等への付議・協議 9月：部長会議等への付議・協議 10月：公表	未定	4大学及び豊田高専
地域の保健統計や事業実績によるデータと、個別ケースへの対応や地域の関係資源から導かれる地域の実情を総合的に把握し、地域の健康課題を抽出し、その結果について試行的に地区説明会を開催する。	公衆衛生学又は統計学を専門とする教授等に以下の内容を依頼 ・（仮）地域診断検討会への出席（年3回） ・各種統計及び事業データの集計分析及び分析結果の作成 ・地域診断結果の作成支援 ・地区説明会への支援 ・地域の健康づくり推進方法への助言 ・随時相談事項への対応	○平成25年度 8月・11月・2月（年3回）： （仮）地域診断検討会出席 8～2月：データの集計・分析 地域診断まとめの作成 1～3月：地区説明会の準備 ○その他随時相談への対応 ○平成26年度以降も継続支援を希望	—	中京大学 日本赤十字豊田看護大学
市ホームページの検証	現在の市ホームページ全般についての感想、検証と今後に向けてのアドバイスをいただきたい。	平成25年7月末まで	情報発信関係についての専門セクションを持つ大学等の有識者1名	情報発信関係についての専門セクションを持つ大学 未定
大学の持つ豊富な知的資源、施設等の物的資源、学生や教授といった優秀な人的資源を活用し、共働によって健康づくりを推進する。	大学の持つノウハウ・知識を活用し、健康づくりの企画・立案を一緒に考案する。	未定	未定	4大学
住宅用火災警報器の普及啓発のために下記の曲に合わせたダンスを行う。 「うちのUFO 住警器」 歌：三咲順子	ダンスサークル「RCT」による普及啓発	フェスタ：平成25年11月10日（日） 打合せを定期的実施。	サークルメンバー17人	日本赤十字豊田看護大学

事業内容	大学側に依頼したい事項	時期	規模・数量	希望する連携先
防災基本条例の周知 「防災」をテーマにしたイベント 市民参加型の訓練の実施	企画・運営スタッフ ボランティアスタッフ 大学でのイベント周知活動 (ポスター・チラシ)	フェスタ：平成26年3月8日 (土) 必要に応じて企画会議等に参加	参加予想：3,000人	4 大学及び豊田高専
高年大学が実施する講座の講師として支援	・講義の実施	平成25年8月28日中京大学教授による講義予定	高年大学学生数：165人	4 大学及び豊田高専
市内高等教育機関との共催による市民公開講座の開催	・講座の企画・運営	大学等が希望する日 ※平成25年度予定9月7日(土) 豊田高専による公開講座	大学等側との調整による ※9/7豊田高専講座 定員20名	4 大学及び豊田高専
子どもたちを対象にものづくりのイベントを開催	・平成26年度にものづくり体験型ブースの出展 (平成25年度の出展者はすでに決定している。)	平成25年10月6日(日) 平成26年10月開催予定	来場者数2万人 出展ブース50ブース程度	4 大学及び豊田高専
小・中・高校生が気軽に相談したり、くつろいで過ごすことができる若者向けサロンの立案、運営	ロビーを利用した青少年向けイベントや事業について企画、運営スタッフとして5名程度に参加してほしい	9月以降で3回程度のイベント実施を予定	各イベント参加予想 50～100人	4 大学及び豊田高専
ボランティア大学生による小・中学生を対象にした学習支援の実施	学習支援ボランティアとして5名程度の学生に参加してほしい	夏休み(7月下旬～8月下旬)及び冬休み(12月下旬～1月上旬)期間	小中学生の利用者予想 夏休み： 延べ2,000人程度 冬休み： 延べ500人程度	4 大学及び豊田高専
ボランティア大学生による子ども会活動の支援 (例) ・子ども会活動の企画立案、運営への参加 ・レクリエーション活動、行事等での活動支援	学生への参加募集チラシの配布	通年 「(仮称)子ども会サポーター」としての登録制度を設け、必要に応じて連絡し活動を開始する	(支援対象子ども会：約450)	4 大学及び豊田高専
若者を対象としたウォーキングイベントの実施	学生主体の実行委員会を立ち上げ、企画・運営を行う。学生へのPR	平成26年度中	参加者：100人程度	スポーツ専攻、社会教育または青少年教育に関心のある人 未定
各種イベントで健康づくりに関するブースの出展	健康づくりキャラクター着ぐるみを着用してブースのPRを行う	4月 エコメーデー 9月末 産業フェスタ 12月 ハイブリッドフェスタ その他依頼のあったとき 随時		未定
市内こども園に出向き、食育のお話をする	たべまる着ぐるみを着用して職員との掛け合い、写真撮影などを行う	5月～2月(ただし7・8月は除く)	全50回程度	未定
中学生があかちゃんとふれあう体験を通して、命の尊さや家族の絆の大切さを感じ取り、親の役割を考える機会として、将来親になる準備教育として実施している	・事業当日、ボランティアスタッフとして、10名程度の学生に参加して欲しい(付添って参加した兄弟兄の世話や、受付の手伝いなど)	ふれあい体験実施校及び日程 ・若園中学校 6月27日(木) ・下山中学校 7月11日(木) ・朝日丘中学校 10月2日(水) 10月4日(金) ・井郷中学校 11月16日(土)	1回参加予想 乳児親子：100組前後	毎年継続的に支援のいただける大学(現在は桜花学園大学の協力を得ている) 未定

事業内容	大学側に依頼したい事項	時期	規模・数量	希望する連携先
放課後児童クラブの指導員（アルバイト）要請に対する環境整備（単位取得扱いするなど）	現在、多くの大学が夏休みに入る8月から放課後児童クラブの指導員アルバイトに協力してくれる学生が多いが、夏休みを通しての勤務ではないため、クラブ、学生双方に不利益がある。指導員のアルバイトに対し、環境整備（単位取得扱いするなど）をお願いしたい。	小学校の夏休み期間中	夏休み期間の学生アルバイト 30人程度	4 大学
市政情報発信の場の提供	学内に広報とよた、ポスター、チラシの掲示	随時	－	4 大学及び豊田高専
図書館未所蔵資料の相互貸借	特になし	随時	50冊	4 大学及び豊田高専

Ⅵ. 平成 25 年度本学が行う事業について

包括連携事業・NO2「地域の保健統計や事業実績によるデータと、個別ケースへの対応や地域の関係資源から導かれる地域の実情を総合的に把握し、地域の健康課題を抽出し、その結果について試行的に地区説明会を開催する」の事業の一環として、2013年7月11日18時から、「医中誌 Web 講習会～業務に文献の裏付けを～」が本学 LL 教室で開催された。本学図書館長・島井哲志教授、中尾明子司書の指導のもと、豊田市内の保健師、管理栄養士などの公衆衛生関係職員 28 名が参加した。本事業は豊田市の包括連携事業の実施第 1 号であったため、メディアでも取り上げられた。(写真 3)

包括連携事業・NO5「住宅用火災警報器の普及啓発の
ために、{うちの UFO 住警器} の曲に合わせたダンス

を行う」事業として、本学学生有志による普及啓発フェスタが2013年11月に開催される予定である。

包括連携事業・NO6「防災をテーマにしたイベント、市民参加型の訓練の実施」事業として、とよた防災フェスタを、2014年3月8日（土）に企画しており、本学からは、ブースの出展、学生の催事運営への参加、フェスタでの他大学との連携、フェスタの広報への協力などを予定している。

VII. おわりに

本学は豊田市に立地する赤十字の看護大学として、地域との連携を深め、もっとも地域に貢献していくことが必要であり、このことは地元豊田市の想いとも一致している。本学では、今後とも教職員・学生が一丸となって、地域社会の文化、教育、まちづくり等の振興に係る連携及び協力を推進していきたいと考えている。

参考文献・資料

- 1) 大学との共働によるまちづくりを推進 豊田市と大学との包括連携協定締結式が行われました(2013年3月29日) 豊田市ホームページ 2013年4月1日
- 2) 連携を行う事業 包括連携協定に基づく連携協議会準備会資料 2013年6月13日
- 3) 豊田市日赤看護大と連携、医学情報を業務へ 矢作新報第1447号 2013年8月2日



写真3 矢作新報第1447号 2013年8月2日(金曜日)発行